

# しがの里山だより

## きれいな川・緊急討論集会 報告

1月7日（土）、「豊島（てしま）の汚染土壌持ち込みを考える」をテーマとした集会在和邇公民館であり、雨模様の夜にもかかわらず35名の参加がありました。

まず、本会理事長から和邇川上流のY砂利（株）へ香川県豊島の汚染土壌を持ち込むことになった経過と、大津市・香川県の対応、連合自治会の取り組みなどをスライド・新聞資料を使った説明がありました。その中で「私を含む住民はインターネットで偶然、計画を知った。大津市に確認すると『香川県からそう聞いている』という返答で初めて明らかになった。情報の公開もせず、法律の妥当性も検討せず、住民の目線で問題に向き合おうとしない大津市の市政に大きな不安を感じる」と訴えました。



参加者からは「連合自治会が香川県に対して要望書を提出するなど動いてくれているが、一般住民にはその内容が十分伝わっていない」「この問題は和邇川流域のみならず、琵琶湖の水で生活する近畿圏1400万人すべての問題だから、広く訴えていかねばならない」「大津市の副市長が住民の要望書を香川県に持っていったというが、大津市として住民の安全を守る姿勢が全く感じない」「トンあたり約6400円で落札したというが、この価格は運送費だけでほぼトントン。将来、全国から同様な汚染土壌を持ち込む先駆けではないか」「琵琶湖の水ガメを預かる滋賀県民・大津市民として、このような計画は許してはならない」など、この計画に許可を与えた大津市に対する強い抗議が出されました。

当日、参加された澤田たか子県会議員は「地域の環境や住民の安全を守る皆様の活動に心から感謝している。県や市に対しても情報公開を求め疑問を追及していきたい」と語り、弁護士の越（こし）直美氏は「この話を聞いてひどいと思った。大津市には事業者の監督責任があり、それをしっかりやらせるように働きかけていきたい」と語られました。

## 今後の方向について一考察

滋賀県は全国で最も不法投棄が多く年2万6千トンに上ると言われています（2010年度統計、2011年12月29日付 京都新聞記事）。とくに湖西道路によって交通の便のよい湖西地域は不法投棄の銀座と言われ、今回の豊島の汚染土壌持ち込み計画が実施された場合、今後、全国から産業廃棄物が集まってくる可能性もあります。それを食い止めるためには、

1. 大津市や香川県に対して徹底した情報公開と納得いく説明を求めていく（香川県の浜田恵造知事は「引き続き大津市と連携して丁寧に説明し、理解に努める。」と会見。同上京都新聞記事）
2. 連合自治会をはじめ、伊香立地区や大津市（議会）・滋賀県（議会）・漁協・農協・琵琶湖下流府県関係者などに呼びかけ、この問題を広く住民に知ってもらう。
3. 一般住民が参加できる署名活動などをしていく、など。

みんなで知恵を出し合ってこの問題を訴えていき、何としてでも計画を中止させたいと思います。

(T. N)

# 声



## 豊島産廃に思う

池本盛雄(大津市朝日2丁目)

豊島産廃残土が大津市で処理されると聞いて過去の記憶がよみがえった。同産廃を報道した記者の1人が私だった。香川県の豊島に産廃が運び込まれるのを突き止め、立ち入り調査をしたのは兵庫県警で、神戸の同僚記者から連絡を受けた私は豊島に渡り、取材した。

島民のマスコミに対する目は冷やかだった。それは、豊島に産廃が持ち込まれる計画に、島民が箴旗を立てて香川県庁に反対デモをしたにも拘わらず、各社が「ミミズを使って産廃を処理するのに反対するのはおかしい」などと、島民の主張を無視するような報道をしたからだった。当時の新聞の切抜きを読んで、このことを知った。

そこで、異臭を放つ処理場で、満面に笑みをたたえて出迎えた経営者に「ミミズはどうなってますか」と尋ねた。すると、経営者の顔は元のいかつい顔に戻り、「ミミズね。まだ活躍してますよ」と答えたが、遂にその活躍の現場は見せてもらえなかった。

後の調査でわかったことだが、香川県は定期的に処理場に検査に入り、処理が適切に行われているかどうかを調べるようになっていたが、処理場経営者が事前に岡山県の玉野市で香川県の担当職員を接待し、偽の検査報告書を出させていた。